

資源管理に必要な情報の提供事業

漁海況予報関連調査

久野 正博・岡田 誠・林 茂幸

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週 1 回発行した。

結果の概要

詳細については平成 26 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告するので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、平成 25（2013）年 5 月から継続していたに C 型が平成 26（2014）年 3 月後半頃から崩れ、5 月には N 型となった。6 月前半は小規模な B・C 型となったが、6 月後半からは N 型が継続した。平成 27（2015）年 1 月下旬には C 型へ移行し、2 月末～3 月上旬に一時的な B 型を経て、3 月中旬には再び C 型となり、蛇行規模を拡大させた。

潮岬沖の黒潮は、平成 26（2014）年 3 月後半から接岸基調が 12 月まで継続した。黒潮小蛇行の東進に伴って、平成 27（2015）年 1 月中旬頃から離岸傾向となり 2 月には一時的に大きく離岸し、離岸が継続した。3 月には徐々に接岸傾向となったが、小規模な離接岸変動が続いた。

2. 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温は、黒潮が N 型基調で推移したことから、概ね低水温傾向で経過し、夏季は記録的な低水温となった。4 月は熊野灘沿岸へ顕著な暖水流入がみられず、低水温傾向であったが、遠州灘沖に小暖水渦が形成され、下旬に志摩半島へ暖水が接近した。5 月は黒潮内

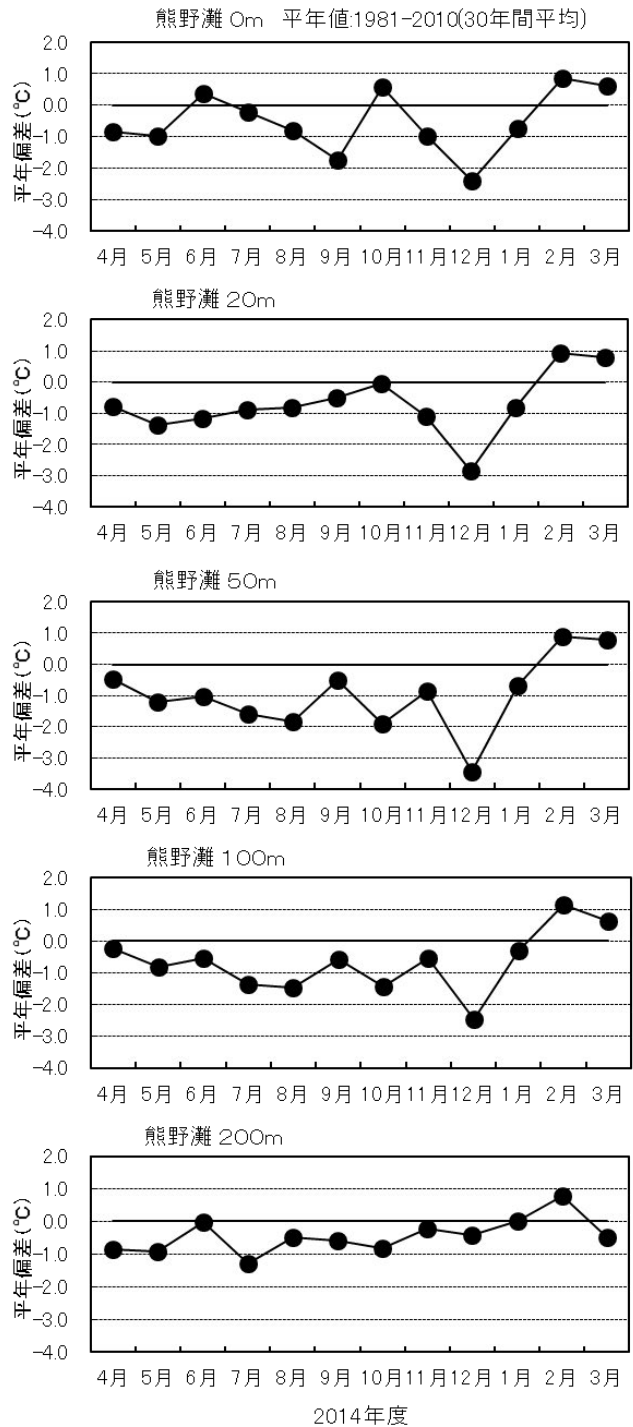


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の 2014 年度 平年偏差

側域へ顕著な暖水流入がなく、低水温傾向が継続した。6月にかけて熊野灘には南から表層暖水が断続的に流入し、7月には気温の影響で表面では昇温したものの、表層を除いた低水温傾向は8月まで続いた。9月は気温の低下が例年より早く、上旬の表面水温は記録的な低水温となった。一方、中層の顕著な低水温はやや解消傾向となった。10月は月末に熊野灘南部へ南から暖水が流入、11月は下旬に黒潮内側反流が形成されて熊野灘にも暖水が流入したが、低水温の傾向は継続した。12月は中旬にかけて降温が進み、顕著な低水温となったが、下旬に広範囲で昇温し、沖合域から極端な低水温は解消した。1月は黒潮小蛇行東端の一部が潮岬沖を複数通過して、熊野灘には断続的に暖水が流入するようになった。2月上旬には黒潮小蛇行の北上部が熊野灘に強く流入し、広範囲で高水温傾向となった。2月下旬には暖水流入が弱まり、高水温は解消傾向となり、3月は平年並基調の水温となり、比較的安定した海況となった。

浜島の定地水温は、4月上旬は平年よりやや高め、4月中旬～5月下旬は平年並～やや低め、6月は平年並～高め、7月は平年並～やや高めで経過した。8月は平年並～やや低め、9月は平年より低めで、特に9月上旬は平年より2℃前後低めであった。10月以降も11月下旬まで平年並～やや低め基調で経過した。12月上旬は平年並～低め、12月中旬～下旬はかなり低めで12月20日前後は平年より3℃前後も低めの11℃台前半まで降温した。1月は平年並～やや低め、2月前半は平年並～やや高め、2月後半は高め～かなり高め、3月は平年並～やや高めで経過した。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、4月はほぼ平年並、5月は平年並～低め、6月は表層で高め～かなり高め、底層でほぼ平年並、7月は表層で平年並～やや高めの他はほぼ平年並であった。8月は表層で平年より低めの他はやや高め、9月は平年並～やや低め、10月は平年並～やや高め、11月は平年よりやや高めであった。12月は低め～かなり低

め、1月も低め傾向、2月はほぼ平年並、3月は平年並～やや高めで経過した。

塩分は、4月はほぼ平年並、5月は表面で高め～かなり高めの他はほぼ平年並、6月はほぼ平年並、7月は表面でかなり高めの他はほぼ平年並であった。8月は表面でかなり低めの他はほぼ平年並、9月は平年並～やや低め、10月は平年並～やや高め、11月は平年並～やや低めであった。12月は表面で平年並～やや低めの他は平年並、1月は全層で平年並、2月は平年並～やや低め、3月は平年並～やや高めで経過した。

DO（溶存酸素量）は、4月はほぼ平年並、5～7月は表面と底層で平年より低め、中層で平年並～やや高めで経過した。底層の貧酸素は、5月7日の調査時に1～3ppm前後の低い値を広く観測し、例年より1ヶ月程度も早く貧酸素化し、6月から7月にかけて貧酸素水塊が拡大した。8月中旬に台風通過によって一時的に貧酸素水塊はやや縮小したが、9月には再拡大し、10月まで継続した。11月上旬の観測時にも伊勢湾北部～中央の一部に貧酸素水塊が残っていた。12月は全層で平年並、1月はやや高め、2月は表面でやや高め～高め、中・底層でやや高め、3月は全層でほぼ平年並で経過した。

白子の定地水温は、冬季の低水温傾向が3月下旬には解消し、4月～5月は平年並～やや高め、6月から平年より高め基調で8月上旬まで経過した。8月中旬から低め基調に転じ、9月前半まで平年より低めで経過した。9月下旬以降は平年並～やや低め基調で11月下旬まで経過し、12月上旬は平年よりやや高め～平年並、12月中旬～1月上旬は平年より低めで、12月中旬はかなり低めの日があった。1月中旬～2月中旬は平年並～やや低め、2月下旬は高め、3月は平年並～高めで経過した。

関連報文

三重県（2015）：平成26年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）